

令和5年度 第1回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：令和5年6月14日（水）午前10時00分～11時00分

場所：荒尾市役所11号会議室

出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員29名

※別紙出席者名簿のとおり

【事務局】

（総務部総合政策課）石川部長、中山課長、林田室長、伊藤

1. 開会

中山課長が、開会を宣言した。

2. 委嘱状交付・委員紹介

中山課長が、新任委員の紹介を行った。

3. 会長あいさつ

昨年度は地域公共交通計画の策定にあたり、計4回の会議にご出席いただき、感謝申し上げます。本年度からは本市における持続可能な公共交通の実現に向けて、実施事業の具体的な検討を進めて参りたい。本市の特徴として、市内全域を運行するデマンドタクシー「おもやいたクシー」がある。当該タクシーを含め、概ね交通体系が調ったところであり、今後は利便性をいかに高め、いかに利用していただくかが課題と考えている。本年度は利便増進実施計画の策定を予定しているため、活発な議論をお願いします。

4. 議事

（1）令和4年度事業報告（案）及び収支決算（案）並びに監査報告について

事務局が、資料1-1～1-4に基づき、令和4年度事業報告（案）及び収支決算（案）並びに監査報告について説明を行った。

審議の結果、出席者の承認を得て、原案どおり決議された。

《主な質問・意見など》

- | | |
|-----|---|
| ○ | ・資料1-2の目標値について、コロナ禍を経て乗車人員が減少しているのはやむを得ないが、60歳以上の市民の公共交通に対する満足度が伸び悩んでいる理由が不明である。 |
| 事務局 | ・公共交通の満足度については、無作為抽出した市民へのアンケートを毎年実施して集計している。公共交通を使わない方にも尋ねているため、なかなか数値が上がらない。そもそも、市全体で公共交通を利用している方の割合が10%程度である。乗っていただいて初めて利便性の高さを理解いただけるものと認識している。 |

- | | | |
|---|-----|---|
| ○ | 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • 出歩かないのでこのようになっていると思うが、そもそも出歩かないのが問題である。また、出歩いていて不便と思うのも問題。どちらなのか。 • 本年度も利用促進事業を行っていききたい。商業施設と連携したモビリティマネジメントを今年度は実施したいと思っている。この施策により満足度が上がってくるのではと思っている。 |
| ○ | | 事務局 |

(2) 令和 6 年度地域公共交通確保維持事業に係る計画（案）について

事務局が、資料 2 に基づき説明を行った。

審議の結果、出席者の承認を得て、原案どおり決議された。

《意見等なし》

(3) 荒尾市地域公共交通利便増進実施計画における検討内容（案）

事務局が、資料 3 に基づき説明を行った。

審議の結果、出席者の承認を得て、原案どおり決議された。

《主な質問・意見など》

- | | |
|---|--|
| ○ | <ul style="list-style-type: none"> • 弊社ではおもやいタクシーと乗合タクシーを運行している。数値目標における高齢者の満足度が上がっていないのは残念である。荒尾市は、全国に先駆けて市内全域でオンデマンドタクシーの運行を開始したと自負している。また、SDGs を考慮した電気自動車での運行など先駆的である。 • 利用者には、おもやいタクシーで確実に移動ができるのか懸念があるのではないかと。ぜひお試し乗車券等を活用し、一度その利便性を体感してもらいたい。利用者は右肩上がりなので、正しく利便性が伝わったら今後利用が定着してくるのではないかと。 • 問題は待ち時間が何分になるかである。今年度から、運転手の昼休憩時の減車が無いように運行しているが、それでも待ち時間が長くなることもある。忙しい時間帯は通常のタクシーや路線バスの併用もお願いしているところである。 • おもやいタクシーと乗合タクシーの運行効率化について、地域の会合等で説明する際は、ぜひおもやいタクシーのお試し乗車を勧めてもらいたい。 |
|---|--|

- ・ゆめタウンシティモールは学生が開店前から並んでいるなど、施設の利用者は多いと感じている。公共交通の利用も進んでいるようだが、施設の老朽化もあり、バスセンターがさびれているように見えるのが残念だ。
- ・老人クラブでは自家用車の運転ができなくなった方や免許を返納した方が多くなり、各種行事に参加できない方がいる。老人クラブへの加入者も減少傾向にある。大規模なグランドゴルフ大会等も以前と比べて参加者が少なくなった。移動が困難な方が増え、活動が衰退傾向である。
- ・大規模なイベントに対して、全てを公共交通でカバーするのは難しい。しかし、考えなければいけない課題である。
- ・路線バスは、全県的に利用者が減少し、減便が進むなど負の連鎖が進んでいる。各行政担当者とも話をしているが、バス、タクシー、鉄道といった各公共交通機関の営業的な壁を取り払い、様々な事業者の方と連携したいと思っている。市民の方が公共交通を利用しやすくするために、「分かりやすさ」を全面的に考えるべきだと思っている。
- ・弊社としても「分かりやすさ」について取り組みたい。利用者の方で、以前はバスに乗っていたが、今はバスの乗り方が分からないという方もいると思う。若年層だけではなく、高齢者向けの乗り方教室なども実施できればと思う。福祉特別乗車証のICカード化についても、機械への苦手意識がある方もいると思うが、使えばきっと便利と思ってもらえるはずである。できるだけICカード化を進めていきたい。計画期間の5年間でできることは精一杯実施したい。

5. 閉会

中山課長が、閉会を宣言した。